多古町五反田清水沢遺跡(1)

事業名　圏央道（大栄～横芝）
所在地　香取郡多古町林字中ノ峯４４３－３ほか
調査期間　平成２９年５月１１日～平成２９年８月１５日
調査面積　１０，４５１㎡
主な時代　縄文時代、古墳時代、近世
主な遺構　縄文時代竪穴住居跡１２軒、フラスコ状土坑１基、陥穴１基、土坑５基、ピット多数
古墳時代竪穴住居跡１２軒　近世　墓坑１基
主な遺物　縄文土器・石器、古墳時代土師器・石製模造品
主な成果

縄文時代中期の阿玉台式期の竪穴住居跡や、貯蔵穴を伴う集落跡が確認されました。土器や石器が多数出土したほか、縄文時代前期とみられる土製玦状耳飾りなども発見されました。また、古墳時代前期から中期の竪穴住居跡が検出され、小規模な集落が営まれていたことが確認されました。古墳時代中期の竪穴住居跡からは、土師器や臼玉、鏡の形をした石製模造品が出土しました。それらを製作するための材料となった滑石の破片が数多く出土したことから、この地で臼玉や石製模造品が製作されていたことがわかりました。遺跡は、周囲を急な斜面で囲まれたやせ尾根の上に位置しており、直下の谷との比高は約30mにもります。このような小高い山の上に、縄文時代と古墳時代の２つの時代に限って集落が営まれたことは、とても興味深いところです。

遺跡全景　南から

竪穴住居跡群（縄文時代・古墳時代）

縄文時代中期の竪穴住居跡（阿玉台式期）

古墳時代中期竪穴住居跡の
土器（土師器）と石製模造品の出土状況